

相撲がやりたい子どもたち
ここに集合！小村 仁志 さん
Hitoshi Omura

地元の子どもを全国へ

土曜日の午後5時。市立西中学校内にある相撲場に子どもたちが続々と集まってきます。これから厳しい稽古が始まるのですが、子どもたちはみんな笑顔。相撲の稽古をとっても楽しみにしているようです。

地元には、琴光喜関を輩出した相撲の強豪校である鳥取城北高校がありますが、ここに地元出身の選手を増やしていきたいという思いから、平成10年にスタートしたのが『因幡相撲道場』です。現在、

女の子3人を含め、小学1年生から6年生までの約20人が、未来の横綱を目指し、厳しい稽古に励んでいます。

監督を務める小村^{おむら}さんは、世界相撲選手権大会での優勝経験もあり、今年の国体で優勝した鳥取県の相撲競技成年男子の監督でもあります。4年前に、後輩に当たる西中学校の倉本先生から道場の指導を引継ぎました。道場を立ち上げた頃は、倉吉市で開催される『桜ずもう』に出場しても、勝ち上がることが出来ませんでした。バスケ部の子どもに負けたことも。しか

因幡相撲道場



し、立ち上げから2、3年後には全国大会に出場できるほどの実力をつけ、東京の両国国技館で開催される『わんぱく相撲全国大会』で3位に入る活躍をした子どももいます。道場から巣立った子どもたちの実力は、着実に全国レベルに近づいています。

楽しく、そして厳しく

午後5時を少し過ぎた頃に小村さんがやってきました。稽古場の鍵が開き、子どもたちは一斉に中に入ります。

この日は待ちに待った2週間ぶりの稽古。急いで服を脱

ぎ、回しを持ち、我さきにと、小村さんや中学生の先輩の前に並びます。順番に回しをつけてもらい、済んだ子どもから土俵の準備に取り掛かります。それが終わると、全員で土俵の周りを10周ほど走ります。続いて四股を踏み、体操、摺り足、そしてぶつかり稽古。この日は人数が少なかったのですが、全員の相手を小村さんがします。小さい子から順番に当たっていきませんが、中盤になると、小村さんの胸が真っ赤になってきます。バシッ、バシッという音もだんだん大きくなり、当た